

第 2 表 榑場区に於けるシイタケの形質

測 定		榑木樹種	傘の大きさ(半径)		肉の厚さ		柄の長さ		柄の中央直径	
年月日	回数		平均(mm)	比率	平均(mm)	比率	平均(mm)	比率	平均(mm)	比率
29. 4. 7	I II III	コナラ	30	100	8	100	24	100	9	100
29. 12. 10										
30. 2. 11										
30. 2. 28	IV V VI	コジイ	21	70	6	75	17	71	7	78
30. 3. 10										
30. 3. 29										

第 3 表 土室区に於けるシイタケの形質

測 定		榑木樹種	傘の半径		肉の厚さ		柄の長さ		柄の中央直径	
年月日	回数		平均(mm)	比率	平均(mm)	比率	平均(mm)	比率	平均(mm)	比率
28. 12. 22	I	コナラ	33	100	11	100	21	100	8	100
29. 1. 19	II									
29. 12. 10	III	コジイ	31	94	9	82	18	86	7	88

するには、寒風のあたらない湿気の多い場所に立込むことによつて或る程度大きくすることが出来るが、問

題は今後榑木の寿命がコナラと同じく保てるかどうかにあると考える。

21. 夏季保存したシイタケ種駒の活着及び榑付きについて*

林試 宮崎分場 温水 竹則・堂園 安生

1 緒 言

培養した種駒の保存は、秋から春の低温期間では、瓶培養のまま或は箱詰めにして2~3ヶ月の保存にたえるが、夏季の高温時期に保存した場合は、菌の繁殖力が弱り原木への活着が低下すると云われている。

筆者らはこの低下の状態を、瓶培養のままと培養瓶から取り出して箱詰めとした場合の保存について実験を行つた。また同時に在来の種駒と条溝種駒の保存比較についても観察を行つた。

本実験を行うに当つては林業試験場宮崎分場竹下幸氏、久保田暢子嬢の助力を得た。また試験材料については宮崎県林務部林産課及び種駒工場の御協力を得た。記して謝意を表する次第である。

2. 実験の方法

(1) 材料、本実験に使用した種駒はコナラ辺材で木取つた在来の椈型種駒とこの種駒の外側に1条と3条

の条溝を入れた条溝種駒の3種を昭和28年4月9日から同年5月31日まで、25°Cの定温で培養したものである。菌系は宮試16~2系統である。

(2) 保存法、これらの培養を完了した種駒を瓶培養のまま及び木箱詰めとして同28年6月1日から同29年1月25日まで実験室内に放置しておいた。木箱はスギの4分板で種駒500ケ入りの横18cm、巾10cm、深さ10cmの箱を作り、その中に種駒をハترون紙包みとして入れ蓋をした。

(3) 活着及び榑付き試験法、昭和28年12月伐採のコナラ原木240本を用意し、同年1月26日各試験区それぞれ30本に接種して宮崎分場構内の同一場所に寝せ込みをした。寝せ込み後142日目(同年6月17日)と185日目(同年8月2日)の2回に亘り、各区からそれぞれ5本づつを乱数表によつて任意に抽出し、剥皮して、種駒の活着状態及び1駒当りの榑付面積を測定算出し、保存しないものと各試験区の比較を行つた。第2表の実験値は2回に亘る測定値の平均で()を付した数字は標準区を100とした時の値である。なお標準区は昭和28年10月5日種駒にシイタケ菌を接種

* シイタケに関する研究 第3報

第 1 表 種駒の保存と駒の状態

種駒の保存別	種駒の種類	経過日数	種駒の状態 (昭和 28 年 9 月 28 日調)	経過日数	種駒の状態 (昭和 29 年 1 月 25 日調)
瓶培養のまま	楔型種駒	120日	種駒は菌の繁殖がよく少々柔らかく腐朽する。	239日	種駒は指先で圧縮出来る程度まで腐朽し瓶から簡単に取り出し難い。
	1 條溝種駒	〃	〃	〃	〃
	3 條溝種駒	〃	〃	〃	〃
木箱詰	楔型種駒	〃	種駒の外周面に繁殖した菌絲は発育が止まり、種駒はかたい。	〃	種駒は乾燥して堅く菌絲の繁殖しているのが認められない。
	1 條溝種駒	〃	〃	〃	〃
	3 條溝種駒	〃	〃	〃	〃

第 2 表 種駒の保存と活着及び枴付きの程度

種駒の保存別	種駒の種類	種駒の活着率 (%)	種駒一ヶ当枴付面積 (cm ²)
標準区	楔型種駒	100 (100)	87 (100)
瓶培養のまま	楔型種駒	100 (100)	100 (115)
	1 條溝種駒	100 (100)	103 (118)
	3 條溝種駒	90 (90)	114 (131)
木箱詰	楔型種駒	6 (6)	57 (66)
	1 條溝種駒	8 (8)	51 (59)
	3 條溝種駒	14 (14)	58 (67)

して保存しないものである。

3. 実験結果

これら種駒の保存と駒の状態及び活着、枴付きの程度を表示すれば第 1, 第 2 表の通りである。

以上の結果から次のことが明かとなった。

1. 瓶培養のまま保存した種駒の活着率は、保存しないものと大差ないが、枴付きは、保存のものがむしろ良好である。しかし種駒は、何れも指先で圧縮される程度まで腐朽し、荷造り及び輸送に適せず輸送して使用することは困難である。
2. 木箱詰め保存による種駒の活着率は、6~14%、枴付きは 59~67% に低下する。
3. 条溝種駒は瓶からの取り出しに楔型種駒より多少破損し易いが、活着及び枴付きは大差がない。

即ち高温時期に於ける種駒の保存は、瓶培養のままの保存が木箱詰めより良好であるが、荷作り及び輸送に適しない。

22. すぎ大径材林分の出材率並びに歩留り調査について

八代管林署 岩村正司

1. 調査目的

現在まですぎ大径材に対する適確なる出材率並びに歩留り調査がなかつたので、当署における立木処分及び資材価の参考資料にするため本調査を行った。調査には成立環境等から種々不備な点もまぬがれないが、これ等の点は今後補正することにして此処にその調査概要を報告する。

2. 調査個所の概要

当署管内の大径材林分の平均林分として選定した林分であつて、八代郡泉村字鶴岡国有林 8 林班海拔 986 米東向傾斜五ヶ荘より連る連絡の一角にして、年間平均雨量 300 耗。地勢土質は壤土、土性軟、深度深、結合度適で、すぎ、ひのきの適地と思せられ本造林地は旧藩制時代の造林地で、すぎ造林地の中に一部まつ天然